敬対身代名帳

小西家

へ13
3003

へ13
3003
門 へ13
號 3003
巻
昭和十
三月十八日見了

前編

輪廻應報の言。誣べうぜ。十字體代名詞のごとく見ふ
相列宮川よりの往よ来。舩を彼浦よ歌て親くことを
観ふ。因近属その家口碑小傳る越よ倣ひ。更よこの
冊子を作る事ハ荒唐よ庶しとぞいちう鳥有氏よ倣
托すとゝども。因を推果を示し。善を勸め悪を懲小
至くハ。亦是小說者流の老婆心なるべん歟。

文化五年戊辰孟春　曲亭馬琴叙

秋來只怕雨
垂々甲子無
雲萬事宜穫
稻畢工隨曬
穀直須晴到
入倉時

右

藤坂實太郎

范石湖

秋日田園雜興

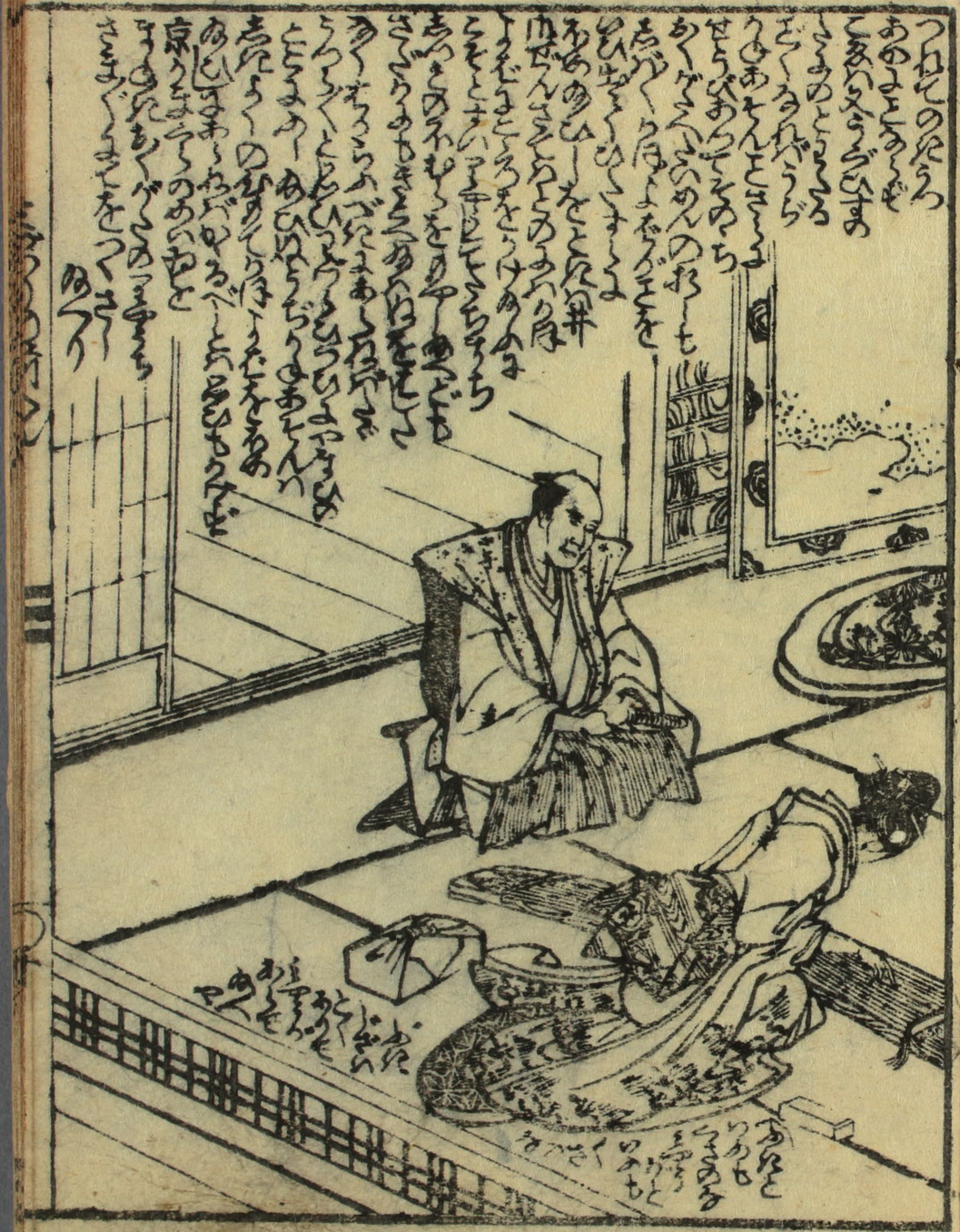
蜘塚治部九郎

蜘手婆々

鋤禾日當
午汗滴禾
下土誰知
盤中食粒
粒皆辛苦
右
唐耳聞夷中
句

貌美葉

しさ



曲亭馬琴作